

氏名(本籍) 白井 貴子(京都府)

学位の種類 修士(看護学)

学位記番号 修士第72号

学位授与年月日 平成18年3月24日

学位論文題目 看護師における独り言と職務ストレスおよびストレス反応との関連 - 共分散構造分析を用いた因果モデルの検討 -

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	74	(ふりがな) 氏 名	しら 白	い 井	たか 貴	こ 子
修士論文題目	看護師における独り言と職務ストレスおよびストレス反応との関連 —共分散構造分析を用いた因果モデルの検討—					
<p>目的 看護師における独り言と職務ストレスおよびストレス反応との因果関係を明らかにする。</p> <p>方法 看護師としての経験 1 年未満の者およびパートタイムで勤務する者を除外した、近畿圏内の大学病院 2 施設の病棟に勤務する女性看護師 579 名を対象とし、私的発話傾向尺度および職場ストレススケール第 1 部を使用し、独り言・職務ストレス・ストレス反応を測定した。分析には、SPSS11.0J for Windows および Amos5.0 を使用し、共分散構造分析を行った。</p> <p>結果 427 名を分析対象者とし、共分散構造分析を行った。その結果、「量的職務ストレスからは影響を及ぼされず質的職務ストレスから影響を及ぼされた独り言は、質的職務ストレスを高めることを通して間接効果的にストレス反応を高める」と設定した因果モデルが採択された。全体的評価において、適合度指標はいずれも十分な値を示し、データとの適合性は高いモデルであると判断された。情報量基準も、改良を重ね検討してきた因果モデルの中では最も小さな値を示し、説明力と安定性を統合的な立場から評価して最も良いモデルであると判断された。部分的評価において、係数はいずれも統計学的に有意であり、重決定係数も十分な値を示した。</p> <p>考察 対処における場面特異性により、独り言は、質的職務ストレスを自覚した状況において情動中心の対処として機能することが示唆された。そのため、量的職務ストレスとは有意な関連を認めなかったと考えられる。質的職務ストレスが高まると独り言をいいがちになり、独り言をいいがちになると再評価を含む一次的評価において、潜在的職務ストレスから質的職務ストレスをストレスフルなものと評価しやすくなることが示唆された。また、ストレス反応に及ぼす影響は、量的職務ストレスからよりも質的職務ストレスからの方が、より大きいことが明らかになった。さらに、独り言は、間接効果的にストレス反応を高めることが明らかになり、少なくともストレス反応の解消にはならないことが示唆された。本研究により、独り言は、看護師における質的職務ストレスおよびそれに伴うストレス反応をマネジメントするための気づきの指標の 1 つとなる可能性が示唆された。</p> <p>総括 1.職務に関するストレスは、身体的負荷である量的職務ストレスと、精神的負荷である質的職務ストレスとに分かれ、独り言やストレス反応に影響を及ぼす。2.質的職務ストレスは、独り言との間に正の共変関係をもつ。3.量的職務ストレスは、独り言との間には影響する関係をもたない。4.ストレス反応に及ぼす影響は、量的職務ストレスからよりも質的職務ストレスからの方が、より大きい。5.ストレス反応は、量的職務ストレスおよび質的職務ストレスからは直接効果的に正の影響を受け、独り言からは間接効果的に正の影響を受ける。6.独り言は、看護師における質的職務ストレスおよびそれに伴うストレス反応をマネジメントするための、気づきの指標の 1 つとなりうる。</p>						

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。